

「大阪市民のスポーツと健康に関する実態調査」結果の概要

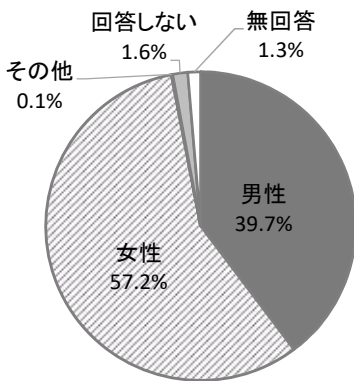
【調査の概要】

- 調査対象：大阪市内在住の18歳以上の市民の中から無作為抽出された2,000人
- 調査方法：郵送による無記名式のアンケート調査
- 調査期間：令和3年7月9日（金）～7月26日（月）
- 回収数：821件（41.5%（対発送数））

1 回答者の属性

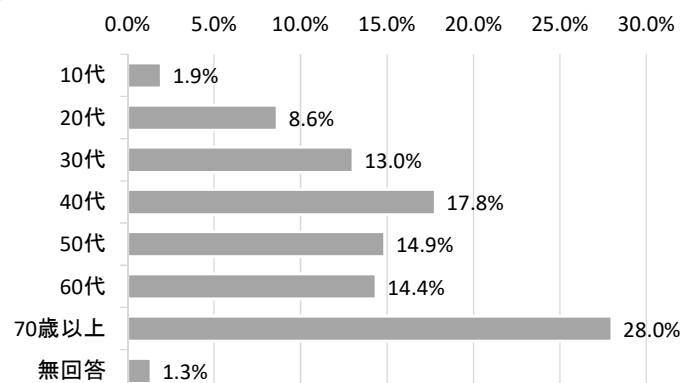
○性別：

男女比4：6で女性が多い



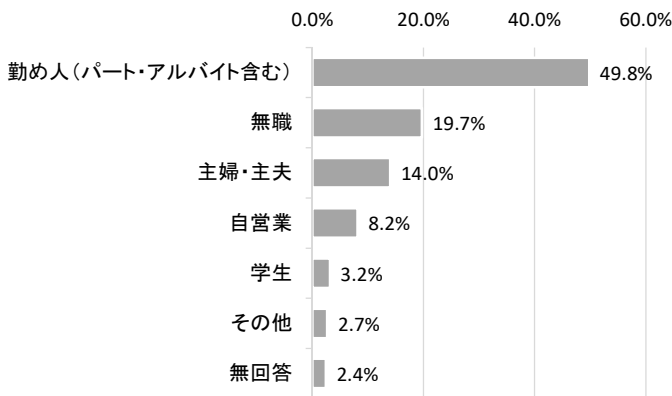
○年齢：

「70歳以上」が最も多く、60歳以上が4割



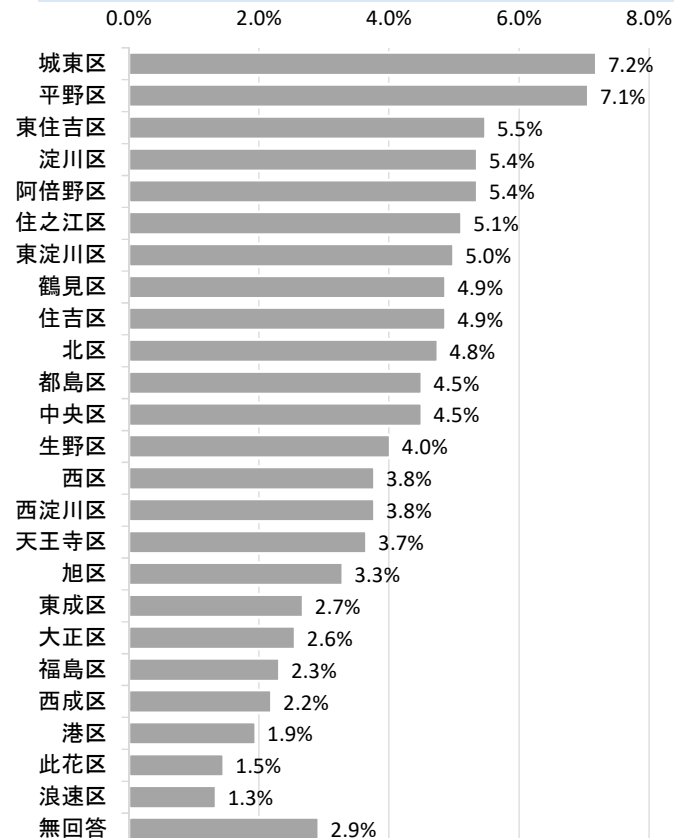
○職業：

半数近くが「勤め人」で、「無職」が2割



○居住地：

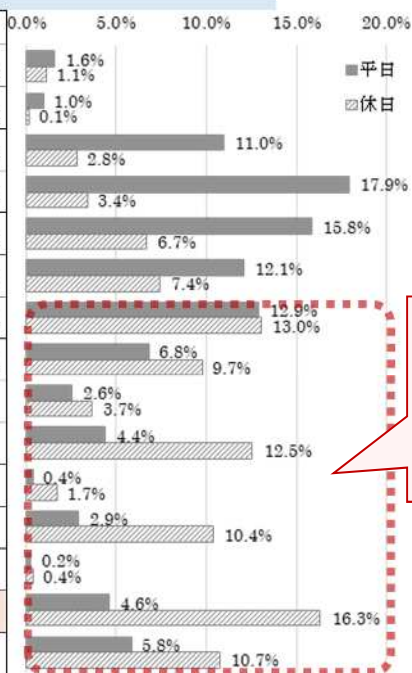
城東区」と「平野区」がともに7%台で最多



2 健康について

○余暇時間：平日は「2～3時間」、休日は「12時間以上」が多い

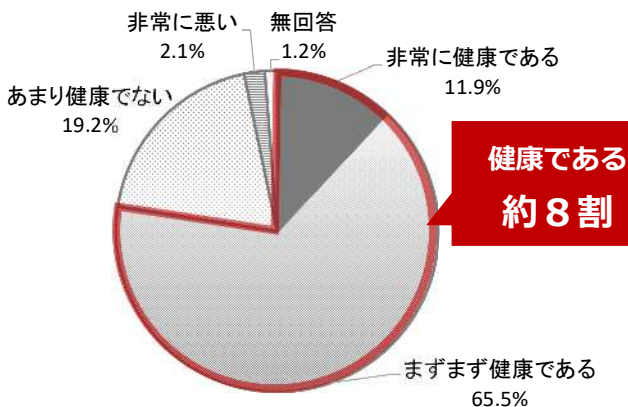
SA	平日	休日
0時間	1.6%	1.1%
1分以上1時間未満	1.0%	0.1%
1時間以上2時間未満	11.0%	2.8%
2時間以上3時間未満	17.9%	3.4%
3時間以上4時間未満	15.8%	6.7%
4時間以上5時間未満	12.1%	7.4%
5時間以上6時間未満	12.9%	13.0%
6時間以上7時間未満	6.8%	9.7%
7時間以上8時間未満	2.6%	3.7%
8時間以上9時間未満	4.4%	12.5%
9時間以上10時間未満	0.4%	1.7%
10時間以上11時間未満	2.9%	10.4%
11時間以上12時間未満	0.2%	0.4%
12時間以上24時間未満	4.6%	16.3%
無回答	5.8%	10.7%
計	100.0%	100.0%



休日の方が
余暇時間が長く、
個人差が大きい

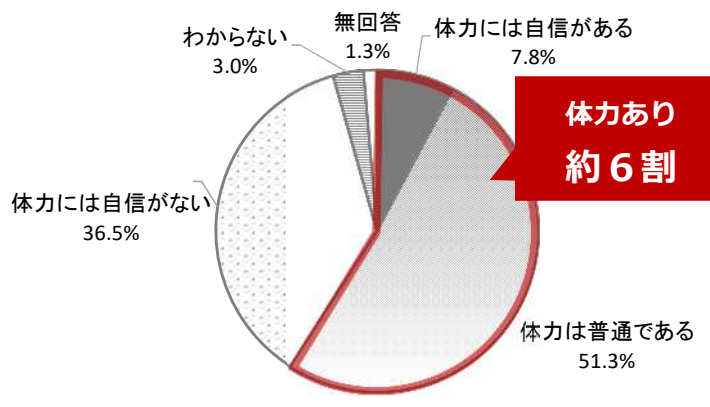
○自身の健康状態：

健康と感じている人が約8割



○自身の体力：

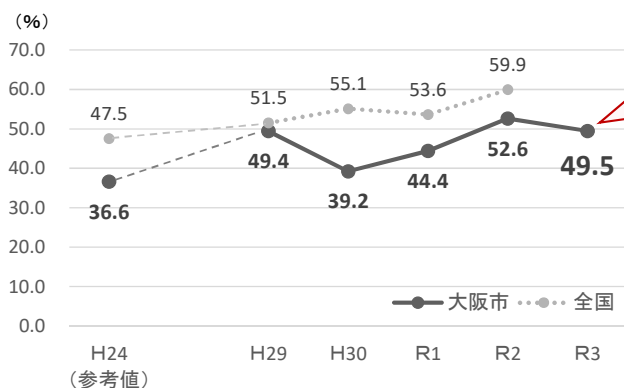
体力がある人が約6割



3 運動・スポーツについて

<ご自身の運動・スポーツについて>

●週1日以上の運動実施率 (R3)：49.5% (週3日以上は24.5%) (10代/30代/50代：低い)



計画策定時 (H29)：全国平均をやや下回る
H30に低下するもその後**増加傾向** (R3やや低下)

新型コロナウイルス感染拡大防止の外出自粛など
生活様式の変化による影響など

※全国平均 (週1日以上：59.9% (R2)) よりは下回る

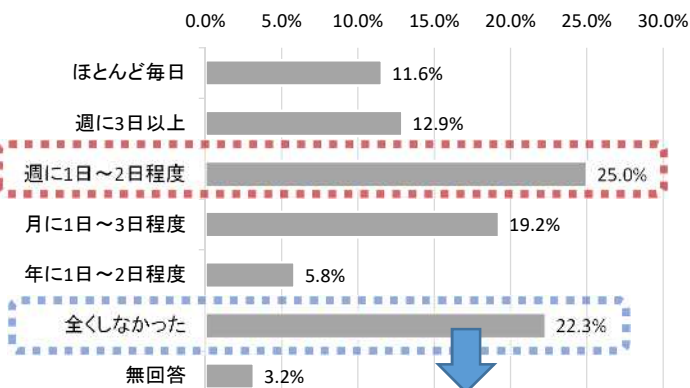
※大阪市：大阪市民のスポーツと健康に関する実態調査 (H24) / 大阪市市政モニター調査 (H29) / 民間ネット調査 (H30～R2)

※全国：体力・スポーツに関する世論調査 (H24) / スポーツの実施状況等に関する世論調査 (H29以降)

※各調査で対象が異なるため単純比較はできない。

○運動頻度：

「週に1~2日程度」が最も多い

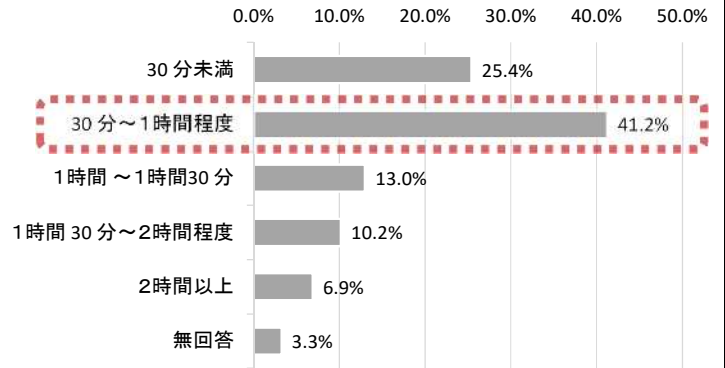


全くしなかった理由

- ・仕事が忙しくて時間がないから

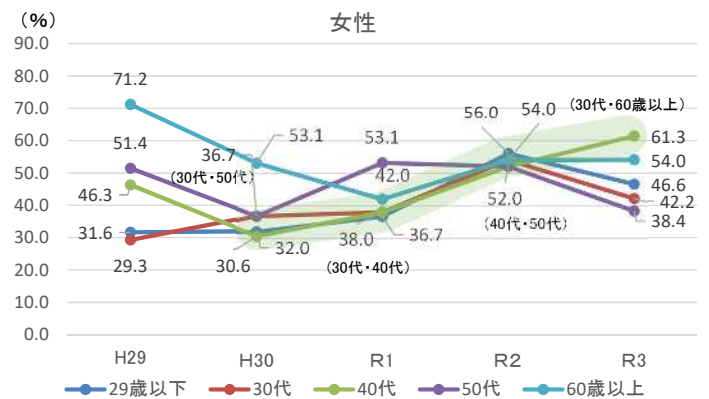
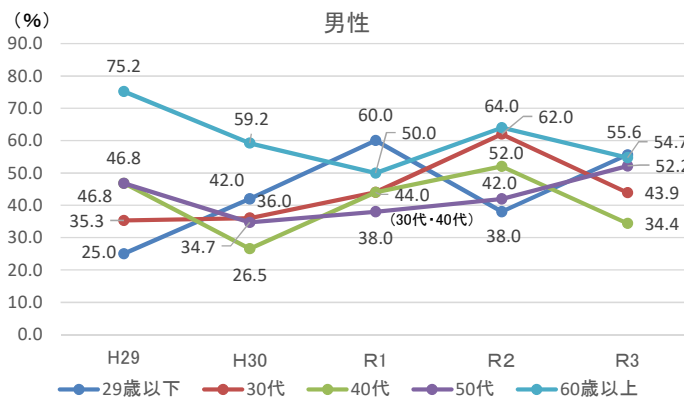
○平均運動時間：

「30分~1時間程度」が最も多い



◆性別×年代別週1日以上の運動実施率の変化

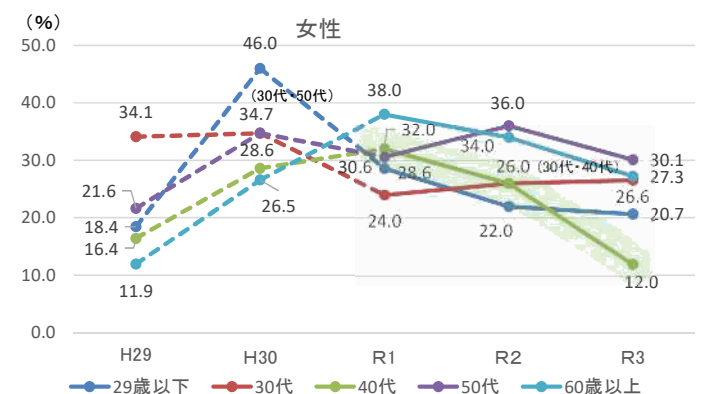
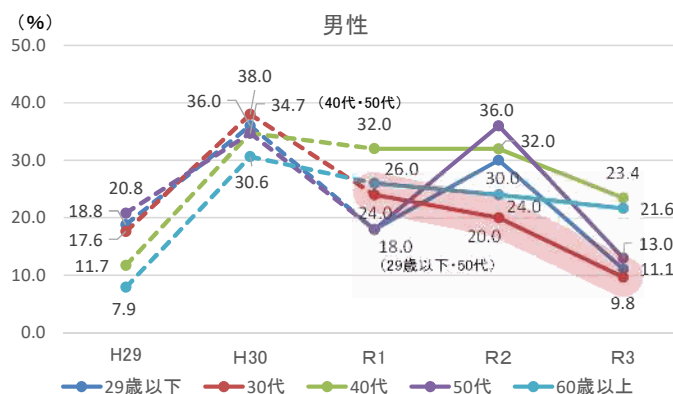
週1日以上の運動実施率：H30以降40代女性が大きく上昇



※大阪府市政モニター調査（H29）、民間ネット調査（H30~R3）

◆性別×年代別全く運動をしなかった人の割合の変化

全く運動をしなかった人の割合：30代男性、40代女性がR1以降大きく減少



※大阪府市政モニター調査（H29）、民間ネット調査（H30~R3）

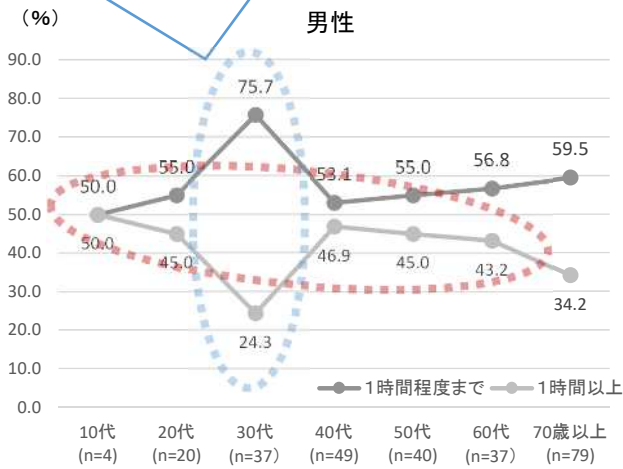
※H30（民間ネット調査）は、この1年間に実施したスポーツの中で「全く運動をしなかった」を選択、全く運動をしなかった人以外に運動頻度を問う形となっており、他の年と調査方法が異なるため単純比較はできない。

※男性、女性以外の回答者数は非常に少ないため省略している。

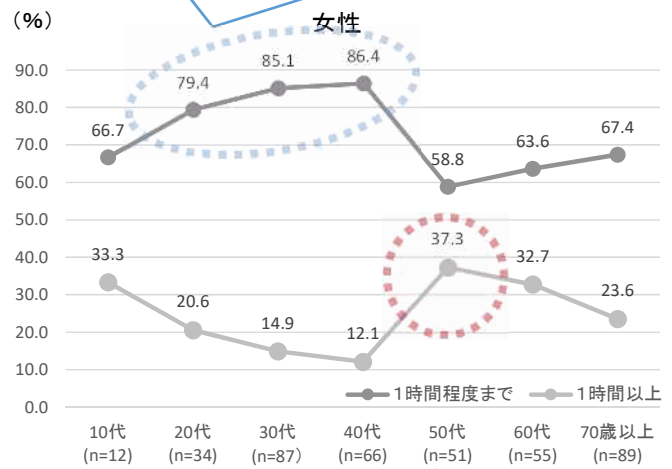
◆男女別・年代別平均運動時間

女性の方が短時間の人が多い。男性は短時間の人と長時間の人と二極化している

30代男性：実施率も低く平均時間も短い



20~40代女性：1時間未満の人が多い

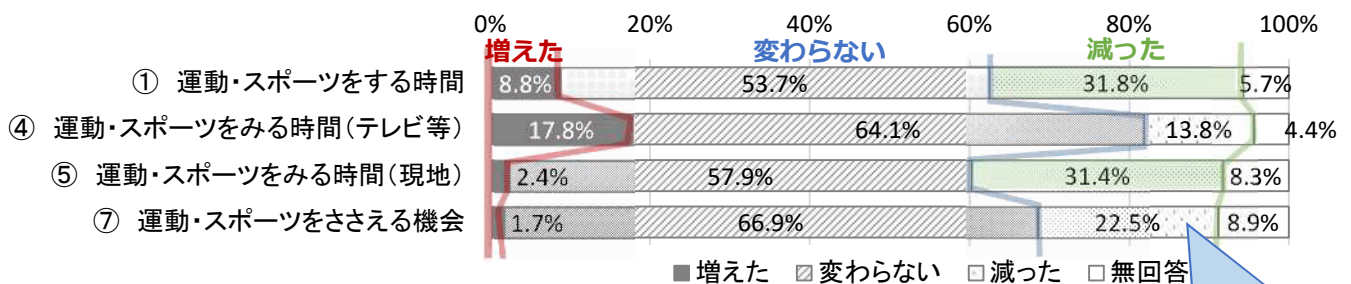


30代・70歳以上を除き、**1時間以上実施している人が女性より多い**

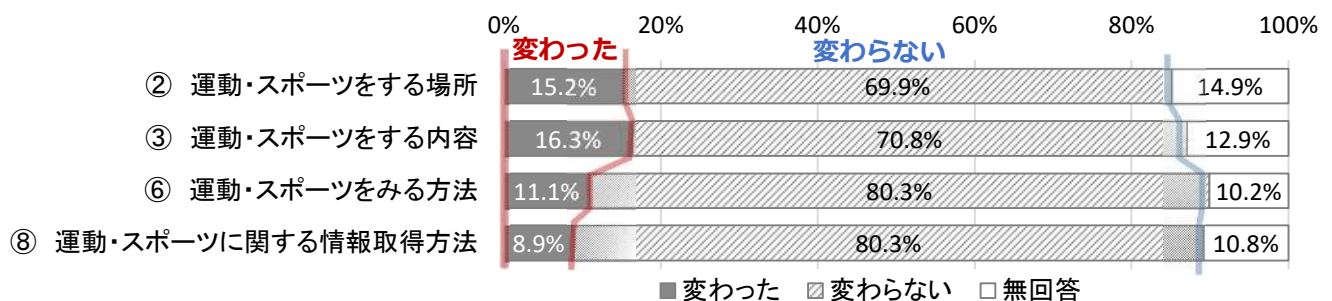
50代は、実施頻度は低いが**1時間以上実施している人が多い**
(1時間以上している人は月1回以下)

○コロナ前後での運動・スポーツ行動：

「変わらない」人が多いが、外出を伴う運動・スポーツをする・みる時間は3割程度減少

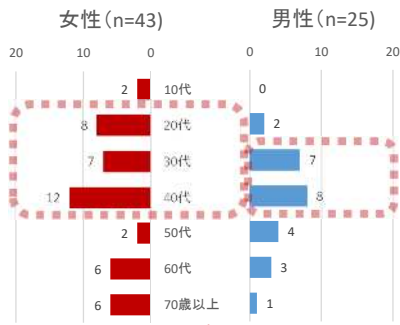


ささえる機会も**2割減**



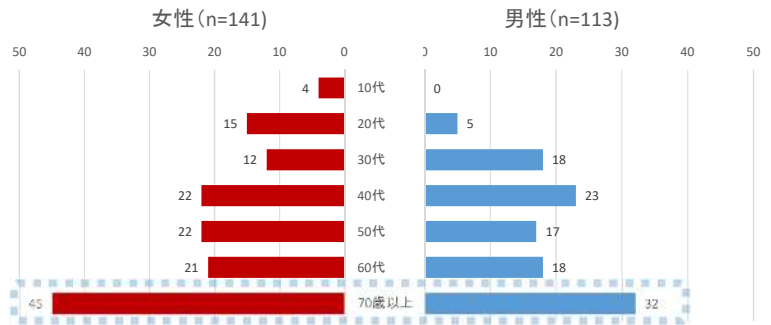
参考 コロナ前後で、運動をする時間(①)が減った人・増えた人の内訳

◆コロナ後増えた人(全体：72人)



男女とも若い世代(特に40代女性)が多い
(女性20~40代、男性30~40代)

◆コロナ後減った人(全体：261人)



男女ともに70歳以上が多い

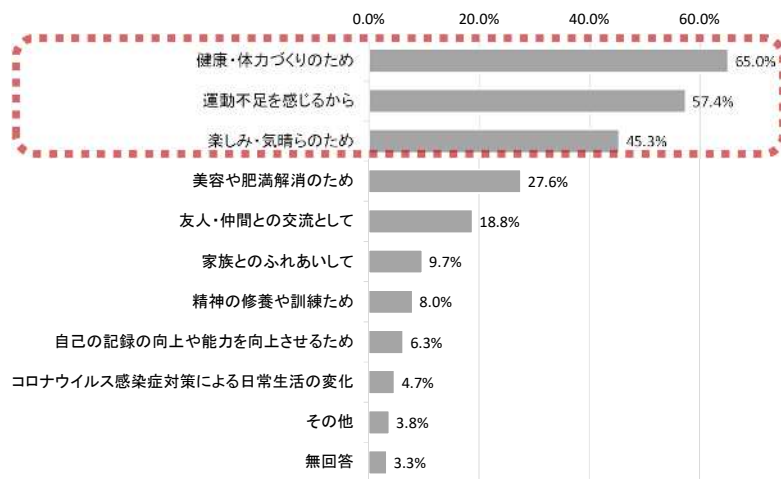
※いずれも年齢、性別無回答者等を除く

○運動・スポーツを行う目的：

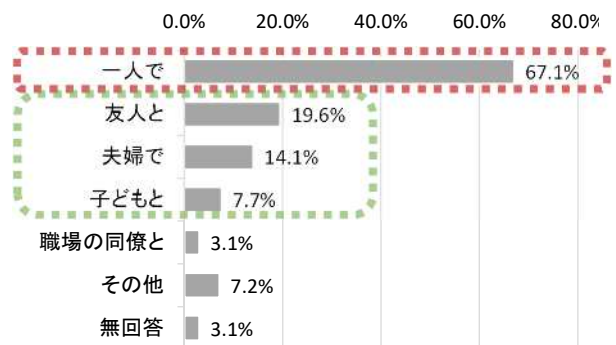
健康・体力づくり、運動不足解消、楽しみ・気晴らし

○運動・スポーツを一緒にする人：

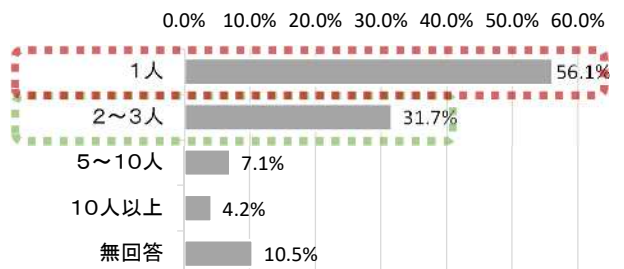
一人か、友人や家族と2~3人で



◆関係性

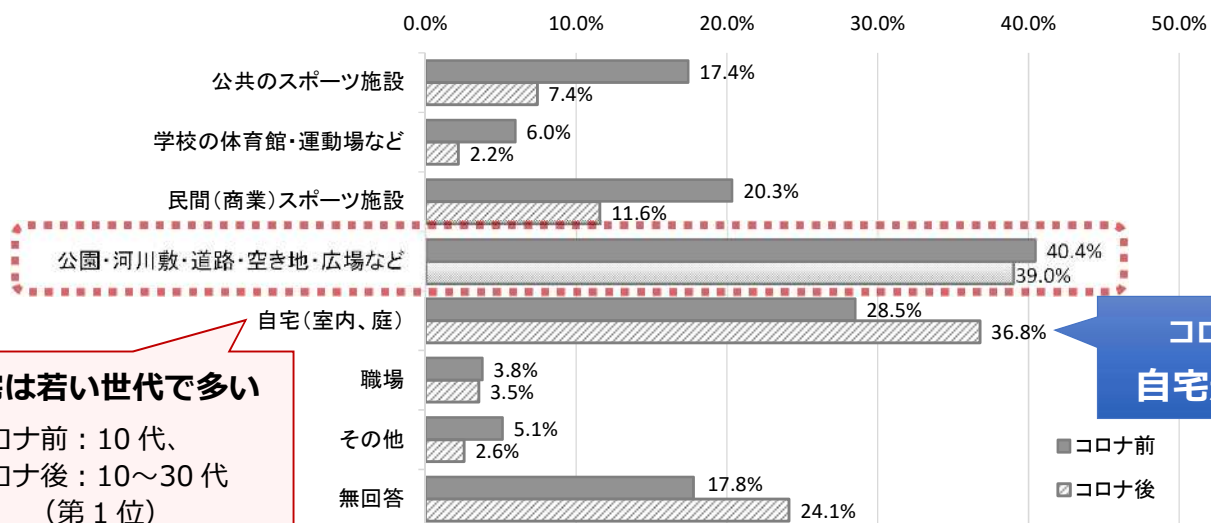


◆人数



※過去の調査でも、「健康・体力づくり」や「運動不足解消」、「楽しみ・ストレス解消」が上位

○運動・スポーツをする場所：コロナ前後ともに「公園・河川敷・道路・空き地・広場など」



自宅は若い世代が多い

コロナ前：10代、
 コロナ後：10～30代
 (第1位)

◆年代別の運動・スポーツをする場所 (第1位)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
コロナ前	自宅	公園・河川敷・道路・空き地・広場など					
コロナ後	自宅			公園・河川敷・道路・空き地・広場など			
	公園・河川敷・道路等						

○この1年間にやった運動・スポーツ/今後やってみたい運動・スポーツ：

「ウォーキング」がやったスポーツ (コロナ前含む)、やってみたいスポーツともに第1位

	この1年間に やった	コロナ前に やっていた	今後 やってみたい
第1位	ウォーキング (ぶらぶら歩き、一駅歩き、散歩などを含む) (63.8%)	ウォーキング (ぶらぶら歩き、一駅歩き、散歩などを含む) (45.8%)	ウォーキング (ぶらぶら歩き、一駅歩き、散歩などを含む) (30.8%)
第2位	階段昇降 (37.9%)	階段昇降 (24.5%)	体カトレーニング (23.3%)
第3位	体操 (23.8%)	体操 (16.2%)	ランニング・ジョギング (18.0%)
第4位	体カトレーニング (16.7%)	体カトレーニング (13.0%)	ヨガ・エアロビクス・ バレエ・ダンス (17.8%)
第5位	ランニング・ジョギング (11.6%)	ランニング・ジョギング (10.4%)	体操 (17.3%)

【コロナ前後での変化】

コロナ禍で、アウトドア・レジャースポーツが減少傾向、やりたい人も増加

◆コロナ前後で大きく変わった種目（5.0ポイント以上変化）

	増えた	減った
第1位	ウォーキング (18.0ポイント増)	海水浴（遊泳） (9.9%→1.7%：8.2ポイント減)
第2位	階段昇降 (13.4ポイント増)	ハイキング・ピクニック、ワンダーフォーゲル (9.6%→4.4%：5.2ポイント減)
第3位	体操 (7.6ポイント増)	キャンプ・オートキャンプ (7.9%→2.8%：5.1ポイント減)

【今後やってみたいスポーツ（現在の実施率は低いに関心が高い種目）】

水泳のほか、キャンプやハイキングなどアウトドア・レジャースポーツへの関心が高い

◆今やっている割合と比べ、やってみたい割合が異なる種目（5.0ポイント以上）

	増えた	減った
第1位	水泳 (2.8%→17.4%：14.6ポイント増)	ウォーキング (33.0ポイント減)
第2位	キャンプ・オートキャンプ (2.8%→16.2%：13.4ポイント増)	階段昇降 (22.8ポイント減)
第3位	ハイキング・ピクニック、ワンダーフォーゲル (4.4%→16.8%：12.4ポイント増)	体操 (7.6ポイント減)

【5年前（H29）からの実施率の変化】

階段昇降や体操など手軽にできる種目が増加、スポーツをしなかった人も大きく減少

◆5年前（H29（一部H30））の実施率と比べ、大きく変わった種目（5.0ポイント以上）

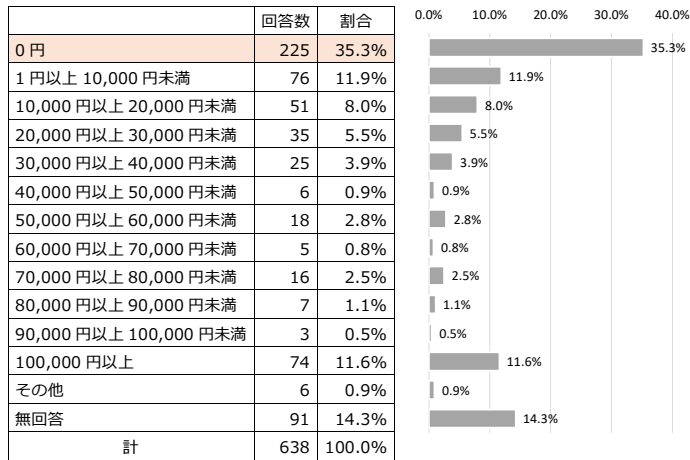
	増えた	減った
第1位	階段昇降 (14.0%（H30）→37.9%：23.9ポイント増)	水泳 (13.7%→2.8%：10.9ポイント減)
第2位	体操（ラジオ体操・職場体操・美容体操等） (5.6%（H30）→23.8%：18.2ポイント増)	-

※平成29年は市政モニター調査結果（一部該当選択肢がないため、平成30年民間ネット調査結果と比較）

○運動・スポーツにかかる費用：

【1年間にかける費用】

0円がほとんどだが、
1万円未満と10万円以上が約1割と二極化



※概算平均：約2万円 (21,881円)

【スポーツ施設利用の負担許容額】

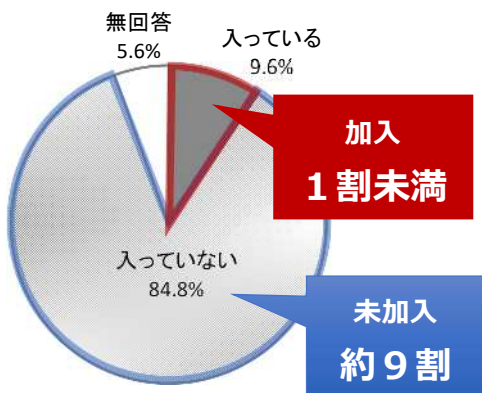
いずれも250円以上500円未満が最多
グループ利用の方が負担許容額は低い

	グループ利用 (1時間あたり)	個人利用 (1回あたり)
第1位	250～500円未満 (23.0%)	250～500円未満 (23.6%)
第2位	100～250円未満 (15.4%)	500～750円未満 (16.8%)
第3位	500～750円未満 (13.0%)	750～1000円未満 (16.7%)
500円以上	36.0%	47.8%
概算平均	453円	564円

<スポーツクラブや同好会への加入について>

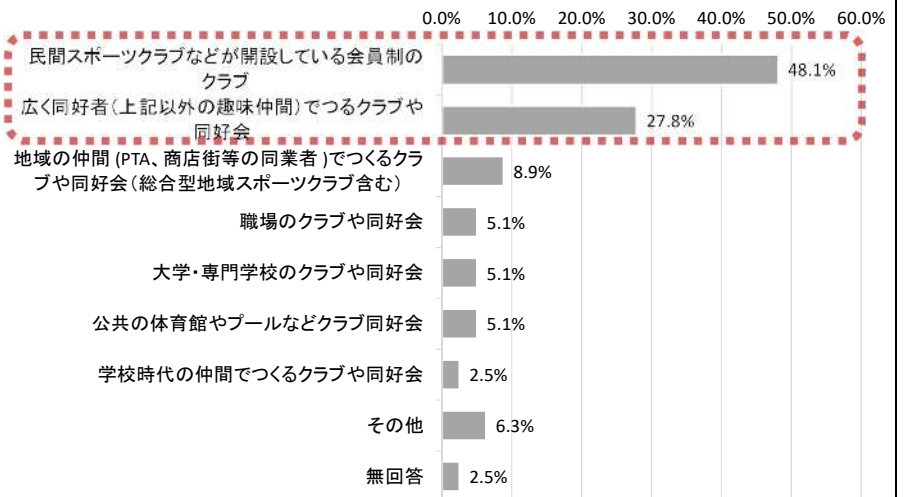
○加入状況：

約9割が「入っていない」



○加入している団体等：

民間の会員制クラブが約半数
趣味仲間とのクラブや同好会も約3割



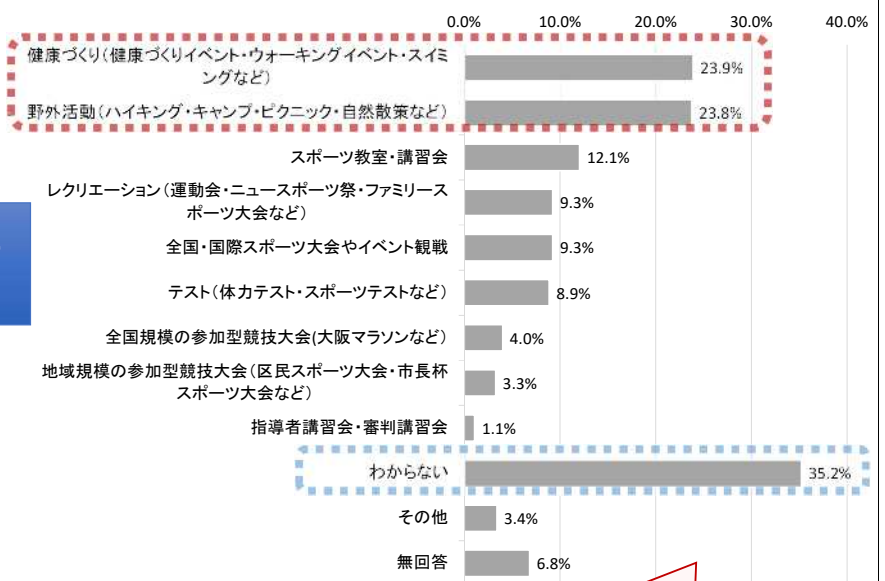
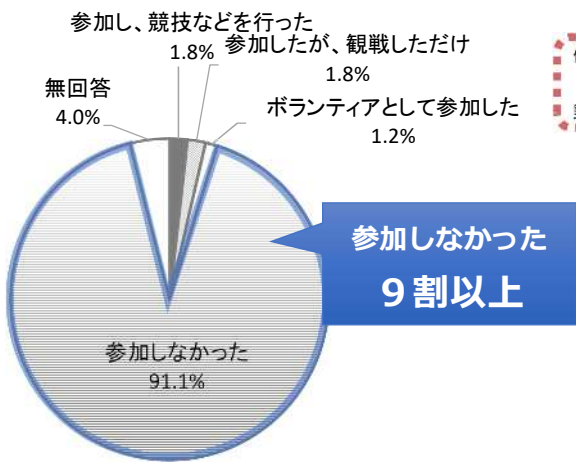
<スポーツ行事について>

○スポーツ行事やイベントへの参加： ○参加したいスポーツ行事やイベント：

9割以上が「参加しなかった」

約4割が「わからない」

「健康づくり」や「野外活動」が人気



年代別第1位
 10代：「野外活動」
 60代：「健康づくり」
 その他の年代：「わからない」

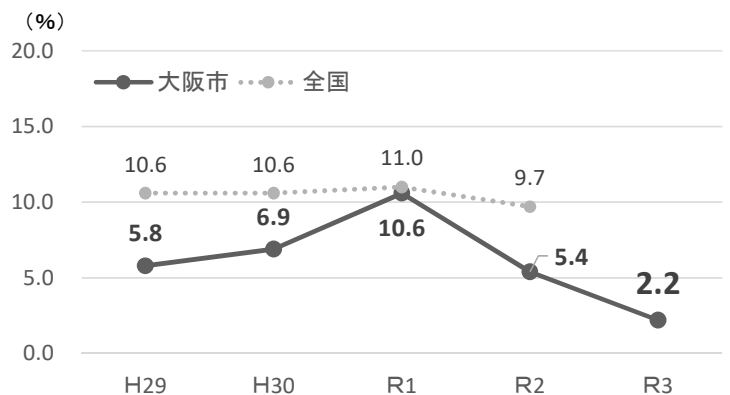
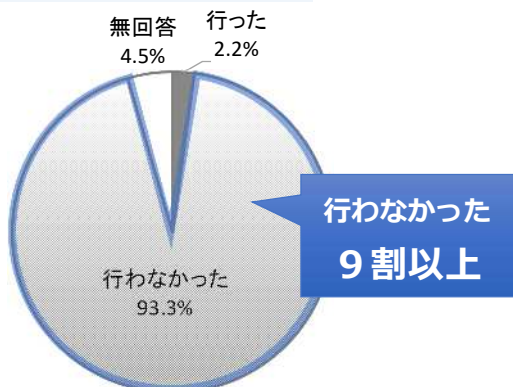
<スポーツボランティアについて>

○スポーツに関するボランティア活動：
 9割以上が「行わなかった」

●スポーツに関わるボランティアをした市民の割合
 (関連指標：方針2)

【ボランティア活動の状況(経年変化)】

令和元年をピークに減少傾向(コロナの影響も)



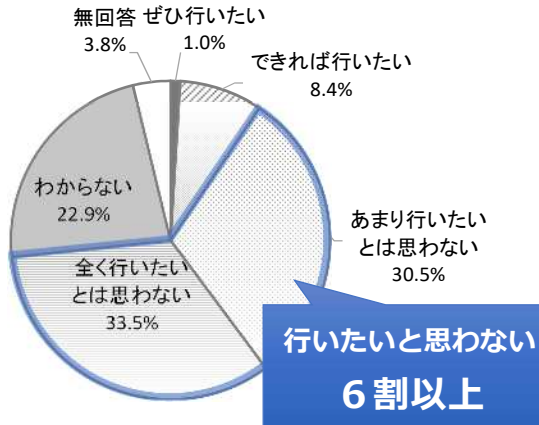
行わなかった理由

- ・時間がない
- ・情報の入手方法が分からない
- ・感染リスク

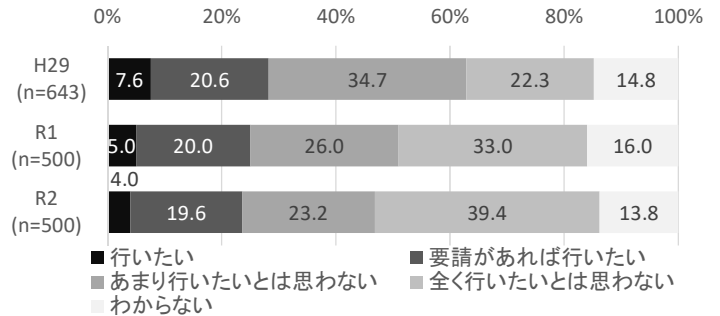
※大阪市：大阪市政モニター調査(H29) / 民間ネット調査(H30~R2)
 ※全国：スポーツの実施状況等に関する世論調査

○今後の意向：

「行きたいと思わない」が6割以上



【参考：ボランティア参加意向（経年変化）】



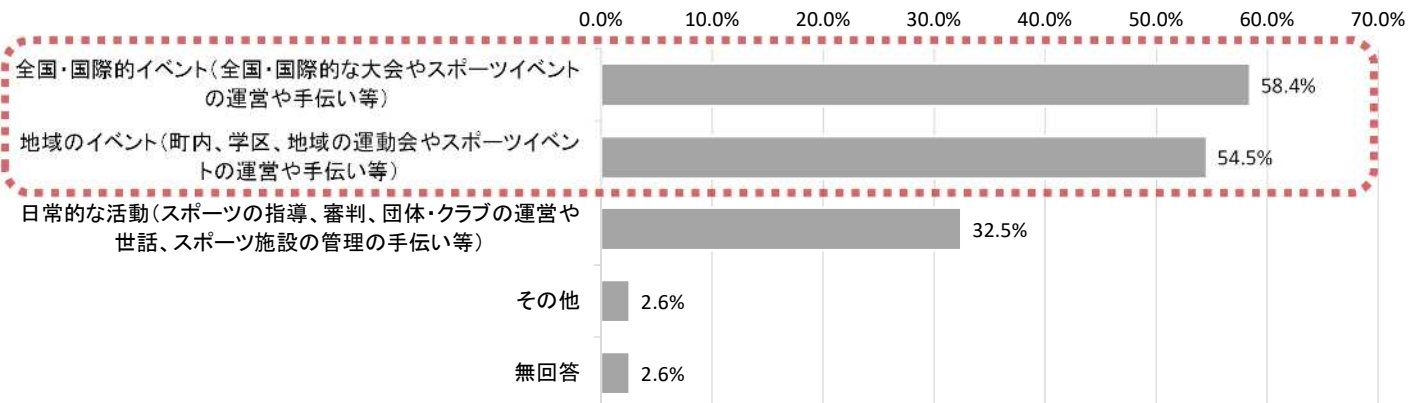
※大阪府市政モニター調査（H29）／民間ネット調査（R1～2）
 ※H30 民間ネット調査では、該当設問はないため省略

	H29	R3
行きたい	25.0%	9.4%
行いたくない	59.0%	63.9%

※選択肢が異なるため単純比較はできない

○やってみたいスポーツに関するボランティア：

過半数の人が「全国・国際的イベント」や「地域のイベント」



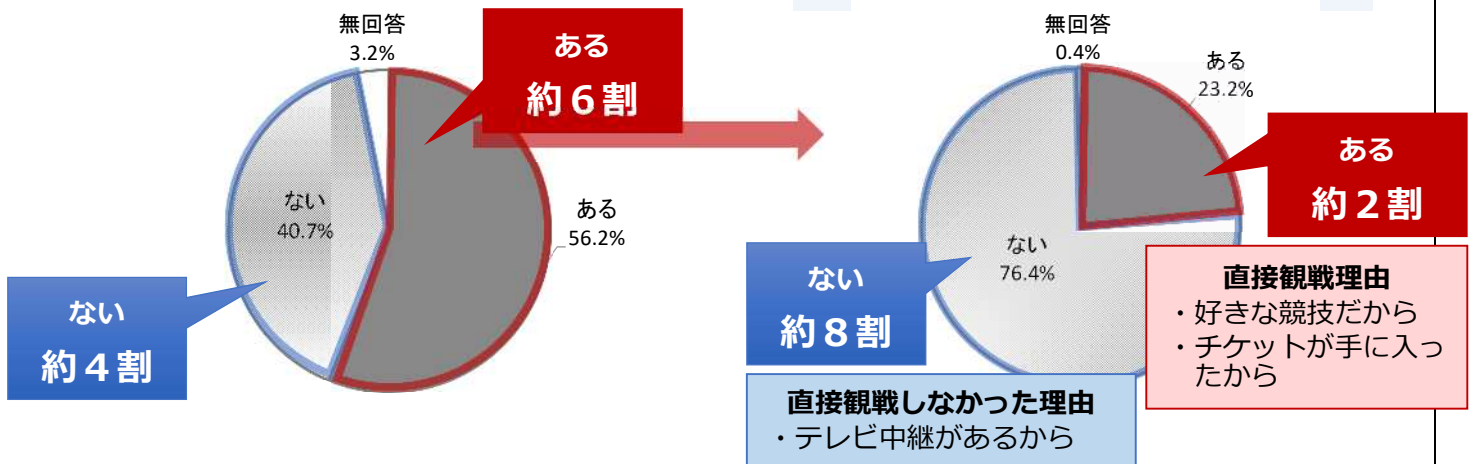
<スポーツ観戦や大会の認知度について>

○スポーツ観戦・観覧状況：

「ある」が約6割、「ない」が約4割

○直接観戦・観覧：

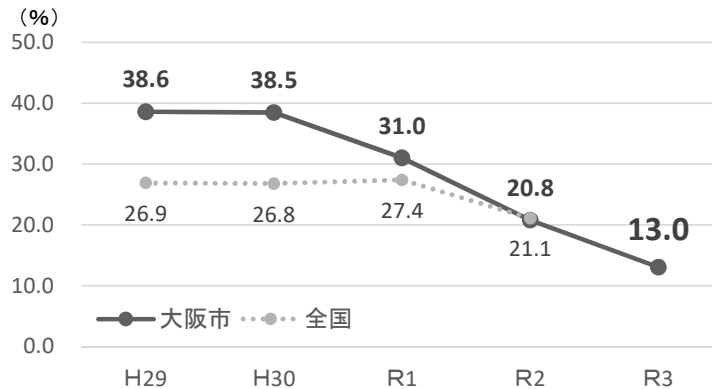
直接観戦・観覧したことがある人は2割



● **スポーツを観戦した市民の割合**（関連指標：方針2）

【参考：直接スポーツ観戦した人の割合（経年変化）】

直接観戦した人の割合は減少傾向（今回同条件にすると**1割程度**：コロナの影響も）



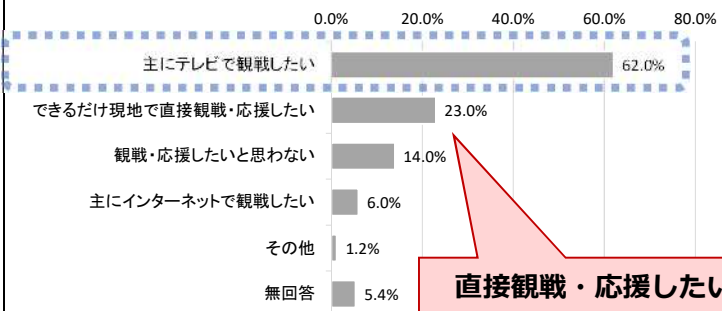
※大阪市：大阪市政モニター調査（H29）／民間ネット調査（H30～R2）

※全国：スポーツの実施状況等に関する世論調査

※今回調査では、スポーツ観戦・観覧をした人の中で直接観戦・観覧した人の割合を聞いている。

○ **今後の意向：**

過半数の人が「主にテレビで観戦したい」



※10代～20代は「観戦・応援したいと思わない」が3割程度

**直接観戦・応援したい
約2割
(20～50代：3割前後)**

○ **直接観戦したい競技：**

第1位	野球	(40.7%)
第2位	サッカー ラグビー	(29.7%)

○ **ボランティア活動をしたい競技：**

第1位	マラソン・駅伝	(9.0%)
第2位	ラグビー 障がい者スポーツ*	(6.7%)

*車いすバスケットボール、車いすテニス等

○大会別の観戦・観覧状況：

「大阪マラソン大会」と「大阪国際女子マラソン」が認知度・観戦率ともに高い

	認知度	直接観戦率	ボランティア参加率
第1位	大阪マラソン (76.4%)	大阪マラソン (13.5%)	大阪マラソン (1.0%)
第2位	大阪国際女子マラソン (71.0%)	大阪国際女子マラソン (10.0%)	大阪国際女子マラソン (0.2%)
第3位	社会人野球日本選手権 (21.6%)	社会人野球日本選手権 (1.7%)	—

① 大阪マラソン大会

② 全日本実業団対抗陸上競技選手権大会

③ 木南道孝記念陸上競技大会

④ 日本陸上競技選手権大会・室内競技 日本室内陸上競技大阪大会

⑤ 大阪国際女子マラソン

⑥ 黒鷲旗全日本男女選抜バレーボール大会

⑦ 大阪市長杯世界スーパージュニアテニス選手権大会

⑧ 大阪城トライアスロン

⑨ 社会人野球日本選手権

⑩ セイコーゴールデングランプリ陸上大阪

⑪ 日本陸上競技選手権大会長距離種目

⑫ FIVBワールドグランドチャンピオンズカップ2017男子大阪大会

⑬ 2018女子バレーボール世界選手権大阪大会

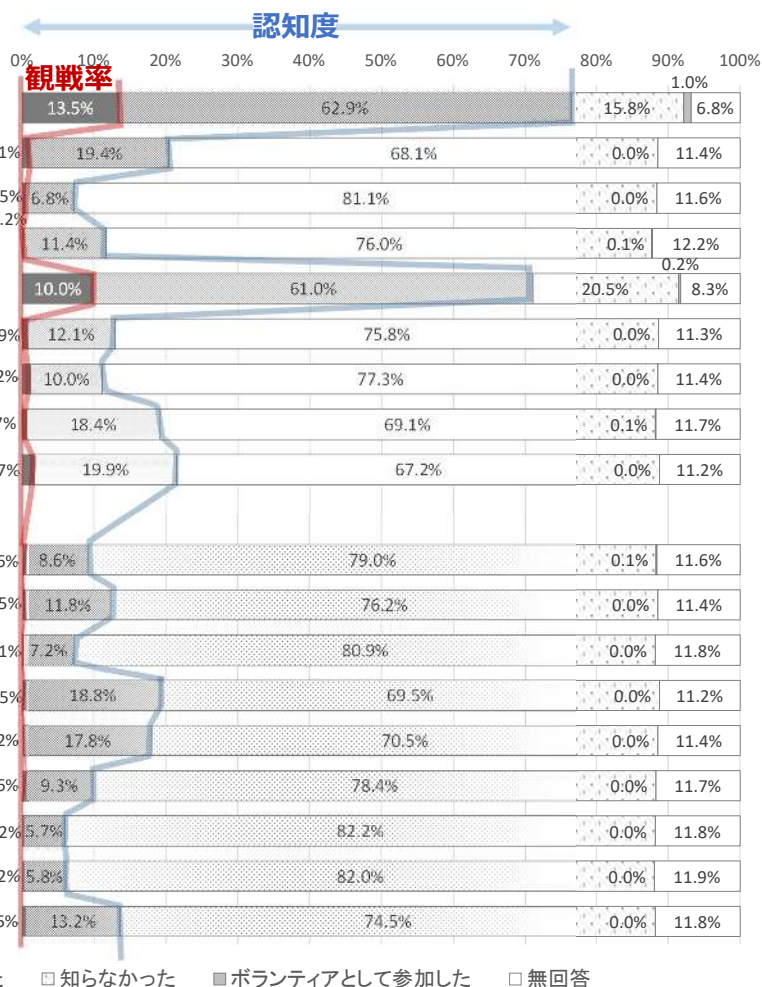
⑭ FIVBワールドカップバレーボール2019女子大阪大会

⑮ デビスカップ ワールドグループ プレーオフ

⑯ フェドカップ ワールドグループ 2部プレーオフ

⑰ 三菱 全日本テニス選手権 93rd

⑱ 東レパンパシフィックオープンテニストーナメント2019



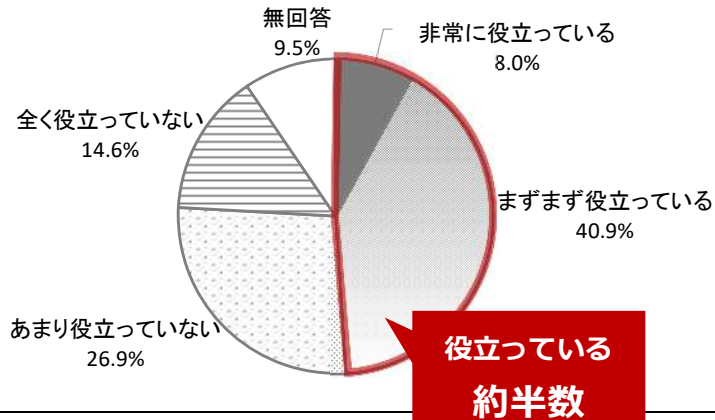
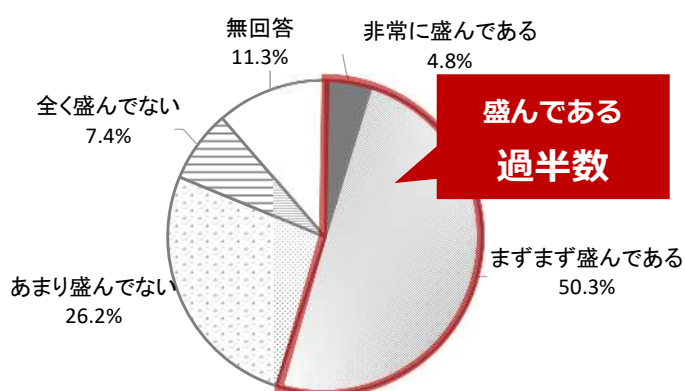
<スポーツの機運・価値について>

○大阪市のスポーツは盛んか：

過半数の人が「まずまず盛んである」

○スポーツは地域のつながりに役立っているか：

4割の人が「まずまず役立っている」

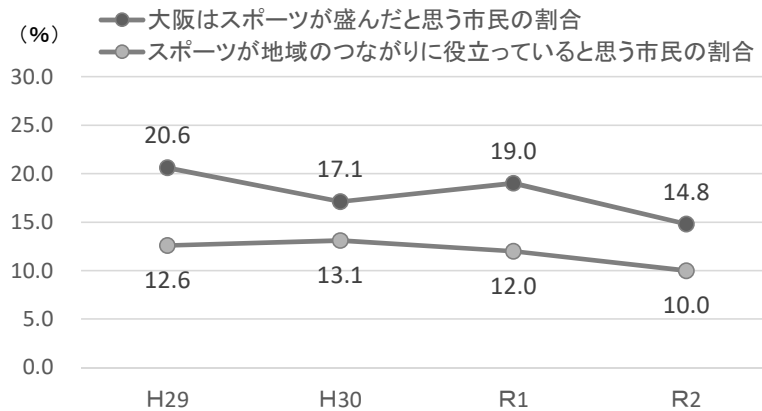


●大阪はスポーツが盛んだと思う市民の割合／

●スポーツが地域のつながりに役立っていると思う市民の割合（関連指標：方針3）

【参考：大阪市のスポーツは盛んか

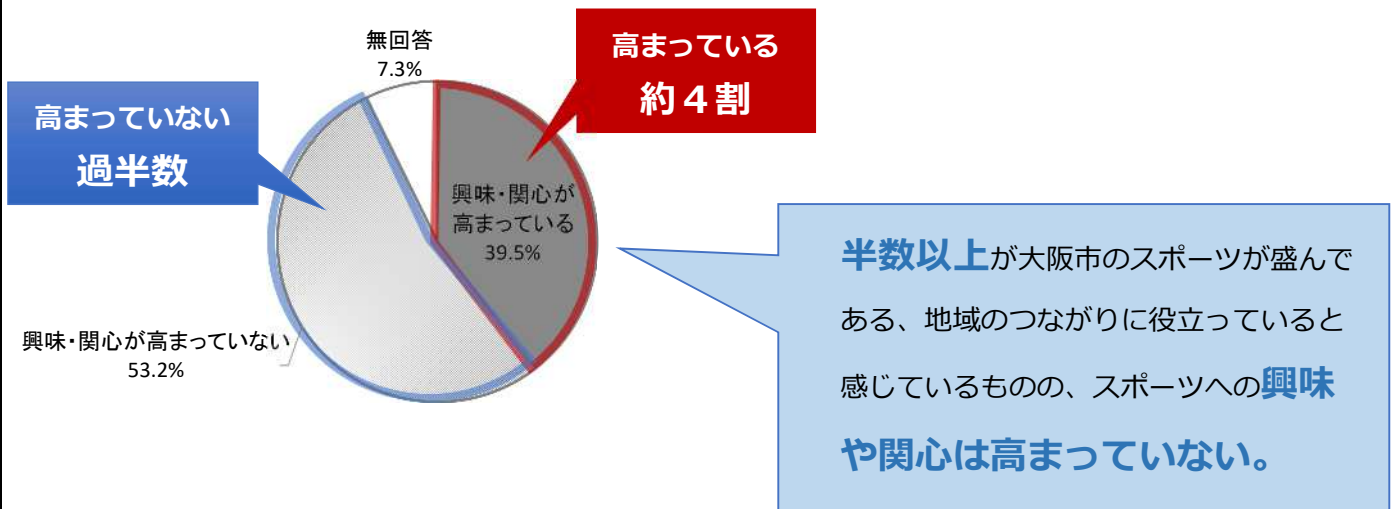
スポーツで人との交流や地域のつながりが深まっていると思うか（経年変化）】



※大阪市市政モニター調査（H29）／民間ネット調査（H30～R2）
 ※設問内容が異なるため、今回調査結果との比較はできない

○スポーツへの興味・関心の高まり：

4割の人が「高まっている」、過半数の人が「高まっていない」

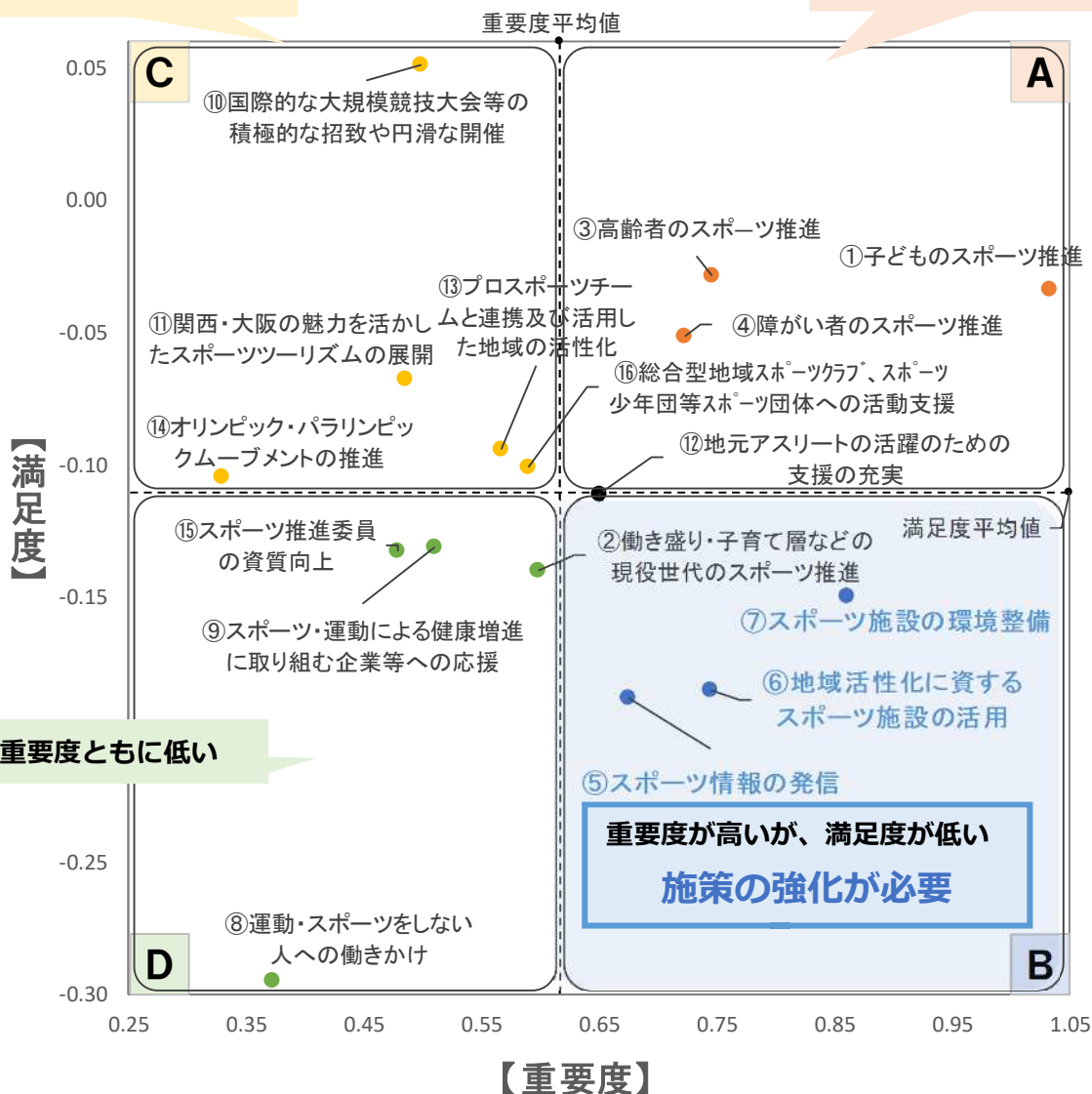


○市が行うスポーツに関する取組への満足度・重要度：

特に「スポーツ施設的环境整備」、「地域活性化に資するスポーツ施設の活用」や「スポーツ情報の発信」の強化が必要

満足度は高いが重要度は低い

満足度・重要度ともに高い



満足度・重要度ともに低い

*加重平均

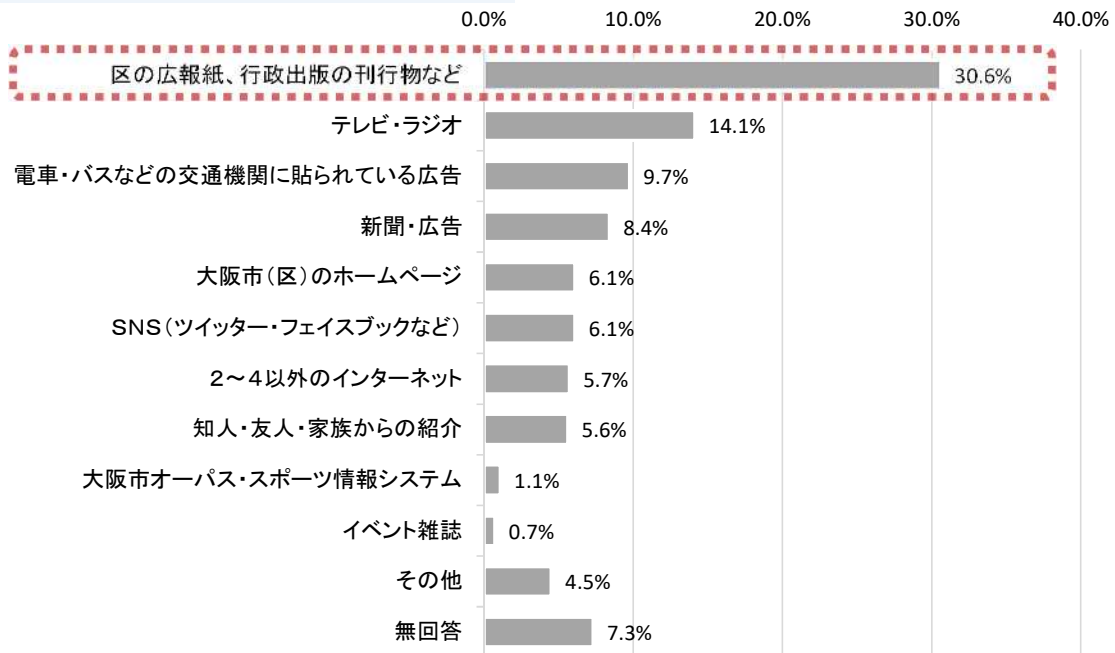
以下の加点表に基づいて加点した総合点（各選択肢の回答数×加点を合計した値）÷全回答者数（821件）値が大きいほど満足度（重要度）が高く、数値がマイナスだと不満が多く（重要ではないが多）、その絶対値が大きいほど不満度が高く（重要度が低く）なる。

非常に満足/ 非常に重要	やや満足/ やや重要	どちらともいえない/ わからない	あまり満足していない/ あまり重要ではない	全く満足していない/ 全く重要ではない
2点	1点	0点	-1点	-2点

＜スポーツ情報サービス、その他について＞

○市内のスポーツに関する情報の入手方法：

「区の広報紙、行政出版の刊行物」が約 3 割



【年代別スポーツ情報入手方法（第1位）】

10代	SNS（ツイッター・フェイスブックなど）
20代	電車・バスなどの交通機関に貼られている広告
30代	テレビ・ラジオ
40歳以上	区の広報紙、行政出版の刊行物など

○入手したいスポーツ情報：

スポーツ施設（50代まで）や手軽な運動（70歳以上）、市内の身近なウォーキングコース（60代）などの情報が求められている ※（ ）内は当該項目が第1位の年代

